

水源の里だより



コイズミ棚田再生研究会スタッフのみなさん

(左から奥平 智博さん、松本 拓也さん、吉岡 亮さん、嶋野 賢一さん、嶋野 美知子さん)

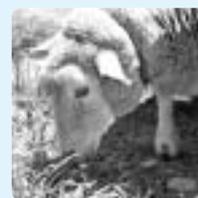
コイズミ棚田 再生研究会ができるまで

研究会が活動している「いずみの棚田」は、かつて約8haの耕作面積を有する棚田でしたが、過疎高齢化が進む中、10数年前から一部を除き作付けされなくなっていました。

風光明媚で豊かな湧水が流れるこの棚田の活用は地元の方々にとっても課題となっていました。平成22年春、この棚田に魅入られ大阪から移り住んでこられた嶋野夫妻の取り組みをきっかけに、地元の方々を巻き込んだ研究会の活動が始まりました。

「コイズミ棚田再生研究会」は、棚田の再生・活用を行うだけではなく、姉川上流地域の活性化も目的とした団体で、平成23年3月に設立されました。その後、市からの業務委託を受け、農業体験等を通じて、就農と移住を促進する仕組みを作るための調査・研究などを行われています。

「水源の里まいばら元気みらい条例」で、重点施策対象地域に指定されている姉川上流8集落の一つ、小泉区。
今回の「水源の里だより」では、作付けされなくなった棚田の活用に向けて活動されている「コイズミ棚田再生研究会」におじゃましました。



草むしり担当の羊たち。子どもにも大人気で、集客にも一役かっています。

水源の里としての 魅力を生かす

研究会では昨年度、調査研究の一環として様々な体験会や講習会などを開催。延べ180人の参加を得たそうです。

そうした取り組みを通じて得た参加者の意見や感想を踏まえ、今年度は米作りを体験・学習できる「マイ田んぼ」をスタート。

伊吹山から湧き出す湧水を使った完全無農薬・無施肥の米作りを耕起・整地から一貫して体験できるということが売りで、現在、用意した5つの区画は、市内外の方々に全て埋まっているとのこと。

他の体験型農園とは一味違う、水源の里としての魅力を生かすための模索が行われています。



ニホンミツバチや牛も園内にいるんだよ。詳しくは不定期発行の「いずみ棚田だより」や、インターネットで「コイズミ棚田再生研究会」のウェブサイトやfacebookを見てね。



小水力発電にもチャレンジ
 コイズミ棚田再生研究会では、地域の資源を生かし、環境に負荷をかけない地域再生可能エネルギーの導入（エネルギーの地産地消、エネルギーの自給自足）を目指し、棚田を流れる豊かな湧水を活用した「小水力発電」の可能性についての研究も進められています。



経営の成り立つ農業を目指して

事務局の嶋野さんに聞きました。

「棚田はひとつひとつの耕作面積が狭いため、効率化を図ることは難しく、新たに就農を成立させるためには、経営の成り立つ農法に取り組む必要があると考えています。

そのために、付加価値の高い自然農法を導入していますが、この農法を実践するには、いずみの棚田は好条件でした。この農法では、農地を自然な状態に戻す必要がありますが、この棚田は一部を除いて、長年作付けされていなかったため、既に自然な状態に戻っていたのです。

ただ、自然栽培は実施されている方がまだまだ少ないので、参加者のみなさんと一緒に農法を勉強しながら地域への興味も持ってもらうえたらと期待しています」



県外から来られた3人。堂に入ったよ。農作業もつうす。

注目される中山間地域

現在、研究会で働いているスタッフのうち3人は、北海道、愛知県、京都府から来られた20〜30代の若者です。

事務局の嶋野さんは、

「姉川上流地域のような中山間地域での就農に興味を持つ若者は確実にいると感じています。そうした若者や都市部から来られた方達が、体験や交流を通じてこの地に魅力を感じた時に、収入面でもしっかりと定住できるような環境づくりに研究会で取り組んでいくことができればと思っています」と語ってくださいました。

みなさんも一度、「いずみの棚田」を訪ねてみませんか。

今後の活動スケジュール

●自然栽培勉強会

毎月第1土曜日
 (19時からシヨイいぶぎにて)

●稲刈り体験

10月27日(土)
 (田舎暮らしフェスタ プログラム内)

●その他イベント

収穫感謝祭・こんにやくづくり・そば打ちづくり・開拓体験・道づくり体験など(時期未定)